

劇団 SUPER TAICHIMON

ver. 4

「すとれーハーネー」

作・演出 ナカオタイチ

【配役表】

コイズミ (31)

下前祐貴

ヒナタ (18)

富永実里 (A) ／ セナ (B)

ヨウコ (26)

森岡里世

ナツ (23)

戸倉志歩 (A) ／ 楠野菜那 (B)

アツシ (51)

齋賀正和

キビツ (26)

長瀬大祐

モモヤマ (26)

松本弥恵 (A) ／ 加藤優菜 (B)

エンマ (40)

中瀬古 健

タカムラ (33)

桜庭真以

シニガミ (?)

中尾太一

劇団 KK 旗揚げ公演のカーテンコール。

客席より感極まった表情のコイズミが登壇する

コイズミ
本日はご来場いただき誠にありがとうございました。僕一人の力では決してこの舞台を作り上げるとはやめませんでした。スタッフさん、そして劇団員のみんながいてくれたからこの舞台をこうして皆さんにお届けできただと心より実感しております。本当にありがとうございました。おつかれ、良い作品、いい舞台をお届けできるようこれからも精進してまいります。劇団 KK 主宰・コイズミコウイチでした。改めまして、本日は劇団 KK 旗揚げ公演にお越しいただき誠に、ありがとうございました。

アナウンス Welcome to our show. We were looking forward to this moment. Thank you for being here, We will show you the place where true and lie become one. Memorize this time we will spend together and keep us in your hearts. We would like to introduce the members. (出演者の紹介)
Let's get start it, SUPER TAICHIMON ver.4 STRAIGHT GO.....

暗転

#1

舞台中央の椅子に座っているヒナタ。上手と下手にはそれぞれ机一台と椅子が二脚。舞台中央でアツシがヒナタのほっぷを触つたりしながらあやしていれる。

アツシ
ヒナタ
アツシ
お母さん一準備できひぬへ……ひめん、田舎者、かねへんお母さん呼んでかい
ヒナタ、じつと座つたまま動かない
アツシ
ん? ヒナタ? ヒナタ? おー、ヒナタ?
アツシ、ヒナタと視線が合わないことに困惑する

アツシ

母さん！なあ、ヒナタの様子がちょっとおかしいんだけど？あれ？おーい、こっち向いてーヒナタ。なあ、ちょっとこっち来て！ヒナタ！おーい、ヒナタ！

アツシ、下手の椅子に移動する。病院の診察室。医師と向かい合いながら話を聞くアツシ

アツシ

：網膜芽細胞腫？…え？…えーと…目の癌？…両目共ですか？…摘出？…目を摘出しないといけないんですか？摘出しないとどうなるんですか？…脳に転移の可能性？いや、…あの、何とか摘出しないで済む方法はないんですかねえ？抗がん剤治療とか？…先生…だって…まだこの子は二歳なんですよ…何とかなるでしょ？…そんな無責任なこと言わないでください。…この子を育てるのは俺たちなんですよ！…なんとかならないんですか？…なあ先生…！先生！

果然としながら上手の机まで歩き（帰路）、椅子に座る。机の上に突っ伏しているアツシ。自宅リビングのテーブル。スポットが横の椅子に変わる。

アツシ
どうすればいいかな？今摘出すればほぼ確実に命は助かる。けど、目の見えない人生つて…。なあ、どうすればいいんだろう？

アツシ、着ている上着を自分の頭にかける。何も見えない暗闇の世界。ヒナタが一生その状態になることを想像し絶望するアツシ

アツシ

ううつ、うう…

ヒナタ立ち上がる。スポットがヒナタに当たる。

ヒナタ

私の家族を紹介します。私にはお父さんと二人のお姉ちゃんがいます。お父さんは美容師です。朝早くにお仕事に行って夜は遅くに帰ってきます。お父さんは料理が得意でお父さんの作るご飯はすごく美味しいんです。一番上のお姉ちゃんは女優さんです。舞台とか、テレビにも出ています。一番目のお姉ちゃんは広告の会社に勤めてます。お姉ちゃんたちは前はたまに喧嘩してたけど最近はあまりしません。私も少し大人になつたからかな。お母さんは私が三歳の時に亡くなりました。三歳の時の記憶はないから、私はお母さんの声や形を覚えていません。ずっと前にお父さんにお母さんってどんな人だったの？って聞いたことがありました。お父さんはち

よつと悲しい声で「嘘つきだつたなあ」とだけ答えてくれました。だから私はそれ以来お父さんにはお母さんの事は聞かないようになります。

少しの沈黙

ヒナタ なんだか…今日もいい天気だな

ヨウコとナツ、ヒナタの方に向かいヒナタを支えて上手へ歩き出す。アツシは変わらず机に顔を埋めている

暗転

#2

真っ白な世界。舞台正面には2台の梯子が横たわっており2枚の白い布がかけられている。タカムラは舞台上を行ったり来たりしながら下界を眺めている。落ち着きのない様子。エンマ少し焦った様子で入ってくる。

エンマ すみません、寝坊しましたー！

少しごつくりした様子のタカムラ

タカムラ あ、おはようございます

エンマ ︰ん？なんか面白そうなことでもあつた？

タカムラ は？なんのことです？

資料を取りに行くタカムラ、エンマ下界を覗き込みフラフラしてゐる

エンマ うーわ、あのカップル、まーた喧嘩してると

タカムラ 何でです？

エンマ うーん…なんか会話の流れからして彼女に黙つて他の女の子とご飯に行つたのがバレたっぽいね

タカムラ ヘー

エンマ 別にご飯くらいいいじゃんねえ

タカムラ まあ、お付き合いにおいての浮気の定義は二人の価値観に基づいて決まりますからね、他の女性と二人でご飯に行く事を彼女が浮気って言つたらそれは浮気になるんです

エンマ

ちなみにその怒ってる彼女、二週間前に友達の家に泊まるつて彼氏に嘘ついて別の男と二人で伊豆に旅行に行つてたよ

タカムラ

で、彼氏は多分幼馴染の子とご飯に行つただけでめっちゃ怒られる

タカムラ

うわー：彼氏、不憫：

エンマ

あの女の子が裁きにかかつたらどんな試練になるのかね？

タカムラ

その場合だと…

エンマ

うわ！彼女泣き始めた！おい！別れようつて言つてるぞ！来た、別れ話！パワフルな子だなー、あー彼氏泣いてる！別れたくないだつて！別れろ別れろ別れちまえ！そんな女に執着すんな！一人の女に拘るなもつといい子いるぞ！あー他の男と伊豆にいつてたつて伝えてあげたい！

タカムラ

ですね！：じゃなくて、ちょっとエンマさん！また下界の者の生活を勝手に覗き見してんですか？裁きにかけられていない者の生活を天界から覗くのは禁止されていますよ！

エンマ

お前もちよつと興味ありそだつたじやん

タカムラ

ダメなもんはダメです！

エンマ

分かつたわかつた

ため息をつくエンマ。少々の沈黙。ちょっと下界が気になる様子のエンマ。また下を見ようとすると首を強引に上に持ち上げるタカムラ

タカムラ

おい！

エンマ

はいはい

タカムラ

しかし、流石にここ最近は暇ですね。ほとんど案件回つてこないですね、やる気も無くなつてきます

エンマ

あら、らしくないねー。下界の法では裁けない過ちを裁き、悔い改めさせることのできる可能性の秘めた、こんなにもやりがいがあり人の為になる仕事どこを探してもないぞ

タカムラ

本当にそう思つてます？

エンマ

んー：

タカムラ

改心率は10%未満、猶予を与えたところで人の本質はそんなにすぐには変わらない。結局同じ過ちを繰り返し、散り散りになつて土に帰つてハイ終わり。仮に猶予期間中に改心したと思つてもその時の痛みや苦しみなんかすぐに忘れてまた同じ過ちを犯す

エンマ

まあまあ、そんなこと言うなつて

タカムラ

すみません、嘘のつけない性格なもん

エンマ

知つてたけど

タカムラ 仕事って、結果に結びつかないとどんどんやる気無くなりますよね、それに
おいては天界も下界も一緒です。

エンマ まあなー。でもお前はもうすぐノルマ達成だろ?

タカムラ 達成までのハードルが高すぎます。もう15年目ですよ

エンマ 俺なんでもう28年だぞ。いくらなんでも罪が重すぎる…一体何人改心させ

ればいいんだよ

タカムラ けど、ま、今できる事を全力でやる、その先に結果はついてくる。そう信じ
て頑張ります

エンマ そうだねー

机の上の固定電話に着信が入る

タカムラ あ!

エンマ お、マジか!

タカムラ あー私出ます!はい、タカムラでございます。はい、はいはい、え??

案件内容をメモするタカムラ

エンマ ん?

タカムラ かしこまりました。承りました、ご連絡ありがとうございます。

受話器を置くタカムラ、

タカムラ シニガミさんから案件きました

エンマ お!

タカムラ :明日、えー天界の時間で8時にご来店の予定です

エンマ えー、ちょっと8時は早いって、うちが8時オープンってあいつ知つてんのか
かな?

タカムラ だから8時にご案内してくれるんです

エンマ いや、8時オープンってのはさ、8時半オープンみたいなもんじゃん、こつ
ちだつて色々と心の準備とかがあるんだから

タカムラ だつたら7時半から心の準備をしておいてください

エンマ つたく、同業だつたらそれくらい気を遣えよなあ

タカムラ さあ!では早速被告人の資料集めから始めましょう

エンマ ヘーい

エンマ、タカムラ奥の資料室へ向かう

都内、劇団KKの稽古場。ヨウコ、キビツ、モモヤマは次回公演の稽古に取り組んでいる。演出席に座っているコイズミ、その横に座つて見ているモモヤマ。稽古場からは怒号が聞こえる。

コイズミ 馬鹿野郎！下手くそ！何をやつてののか全然分かんねーんだよ、今お前どういう感情でその台詞言つたんだよ！

必死に理由を考えるキビツ

キビツ どういうつて…、悲しいなつて気持ちでやりました

丸めた台本でキビツの頭を叩くコイズミ

コイズミ だから、なんで悲しいつて思つたんだ？

キビツ それは…

コイズミ 全く役を掴めてねーんだよ、掘り下げられてねーんだよ、なにがどうしてどうなつてどう思つたから悲しいんだ？あ？感情を繋げていつて台詞に出すのが役者じやねーのかよバカ！想像が足りてねーんだよ！お前そこに座つてろ。つてかお前、家で台本ちゃんと読んでる？

キビツ はい、読んでます

コイズミ お前、家で台本読んでこれなの？おい！

ノートを破るコイズミ。破った紙にバカと書き、モモヤマに渡す

コイズミ おい、これをこいつの背中に貼つてやれ

キビツの背中に紙を貼るモモヤマ

コイズミ 似合つてるじやん。今日こいつのことバカって呼べよ。おい、モモヤマ

モモヤマ はい

コイズミ このシーンの頭の台詞から言つてみろ

え

コイズミ 早くやれよ！

モモヤマ、台本を持ちながらゆっくりと立ち上がり

コイズミ 台本を見るな！

台本から目を離し恐る恐る

モモヤマ でも、ナップキンは置めるようになつたわ。それにあの先生が来てから・・・
コイズミ その前のセリフは？

モモヤマ え？ その前はキビツくんの台詞で

コイズミ キビツって誰だよ

モモヤマ

：

コイズミ キビツって誰だよ？

モモヤマ

：

コイズミ だから、バカの台詞は？

モモヤマ 彼女はお荷物以外何者でもない無能で・・・えーっと・・・

ヨウコ (モモヤマだけに聞こえるように)不作法で、何も教えず

コイズミ 無能はてめーだろ！バカ！他の役の台詞も全部覚えてこいつて言ったよな？
この台本渡したのいつだ？三日前には渡したよな？三日間テーマは何やつ

てたんだ？

モモヤマ

：

コイズミ お前やる気あんの？

モモヤマ あります！

コイズミ じゃあなんで覚えてこなかつたんだよ

モモヤマ それは・・・

コイズミ お前今まで売れるって思つてんの？

モモヤマ

：

コイズミ お前さ、自分の顔見たことある？

モモヤマ え？

コイズミ どう思う？

モモヤマ どう思うって・・・

コイズミ

：

この業界は顔がよっぽどよけりやそこそこ芝居ができるだけで売れるんだよ
で、お前はどうなんだ？よっぽどの美人か？よっぽどスタイルがいいのか？よっぽどいい芝居できんのか？

モモヤマ

：

コイズミ どうなんだよ？

モモヤマ 違います

コイズミ だつたら他のやつの何百倍も努力しなきゃダメだろがバカ！

少し涙目になつてゐるモモヤマ、じーっとコイズミの方を見つめているヨ
ウコ、俯いているキビツ

コイズミ お前らもだぞ、結局就職活動なんかでもそうだろ？大体の人間見た目がいい
と得するんだ。で、お前らはどうなんだ？違うよな？

黙り込む一同

コイズミ 違うよな？

キビツ ։はい

ヨウコ でも、それが全てではないと：
キビツ ヨウコちゃん

コイズミ、ヨウコの方を睨み

コイズミ まあ、例えだ、綺麗で若い男とボロボロの汚ねえジジイ、二人から同時に
助けを求められたらお前はどうちを助ける？

ヨウコ ։それは、今芝居の話と関係ないと思ひます・・・

苛立つた様子でヨウコの方に歩み寄るコイズミ

コイズミ 答えてみろって

ヨウコ ։

コイズミ 答えてみろ！

ヨウコ ։状況によります

コイズミ 答えられないだけだろ？

ヨウコ ։

コイズミ、キビツの方に目をやり

コイズミ お前は？

キビツ、少し迷いながらも

キビツ うーん、綺麗な方かもしません：

ため息をつき、ヨウコの頭を台本で叩くコイズミ

コイズミ そういう事なんだよ。だからお前らは周りの奴らの何倍も努力しなきゃ売れ
ねーしい芝居も作れねーよ。断言してやる。今ままじゃ絶対無理だか
ら

キビツ 頑張ります

コイズミ、机の上を片付け始める

コイズミ 今日はもう終わりでいいや、モモヤマ

モモヤマ は、はい？

コイズミ 明日までに全員のセリフ入れてこいよ

モモヤマ は、はい！

コイズミ お前らもな

キビツ はい！

コイズミ 公演まであと一ヶ月切ってんだ。寝てる暇なんてないぞ、死ぬ氣でやれや、
どうせ死なねえんだから

稽古場から去ろうとするコイズミ

コイズミ あ、モモヤマお前このあと面談な

モモヤマ え？

コイズミ 掃除終わったらLINE送って

稽古場から出ていくコイズミ

3人 お疲れ様でした！

コイズミが稽古場から出るのを見送り掃除を始める3人

ヨウコ ふうー、お疲れさま

モモヤマ :

キビツ なんなんだよ、あいつ

モモヤマ ごめんね、私がちゃんと台詞覚えてこなかつたから一人とも巻き込んで

やつて

キビツ

まあ、しようがないよ。俺だつて全部覚えてないもん。正直当たられるん
じやないかって冷や冷やしてたし

え？キビちゃんも覚えてこなかつたの？

キビツ だつて、他の役の台詞も覚える時間なんてないよ。今日だつて夜勤明けで
ほぼ寝ずに稽古来てるのに

⋮

キビツ つてか、前にも増してコイズミさんのパワハラひどくない？
ヨウコ うーん：

キビツ ここ一年で結局3人も辞めちゃつたもんな、ムトウさんなんて「また明
日もよろしくね！」って言つたつきり音信不通だよ

ヨウコ 辞めてつた人の話はやめよう

キビツ コイズミさんのもとで3年以上続いた人いたつけ？まああんな人間性だ
つたらしようがないか

ヨウコ けどいい舞台作つてたよ、商業の映画にも関わつてたし、演劇祭も獲つた
実績ある⋮

キビツ それも数年前の話じゃん、ここ最近は映画の話も聞かないし賞にもひつ
かからず年に一、二回の小劇場公演のみ。今回なんて50人入るか入ら
ないかの劇場だぜ、学芸会かよ

ヨウコ ⋮だから私たちがあの人の演出の元で頑張つて、いい芝居に仕上げて、沢
山のお客さんが喜ぶ舞台を作るしかないんじゃない？それにどこにチ
ヤンスが転がつてるのかはわからないしさ
キビツ はあ：頑張るしかないか、耐えられるかな
ヨウコ 今は耐えるしかないでしょ、修行、修行！

俯いていたモモヤマが何か決心をしたように

モモヤマ ねえ

キビツ ん？

モモヤマ 私、次の公演終わつたら私、劇団辞めようと思う

ヨウコ え？

キビツ え？え？それ本気で言つてるの？

モモヤマ うん

キビツ いや、え？聞いてないよ！あ、えーっと、まあ、たしかにコイズミさんの
演出は厳しいけど

モモヤマ いや、厳しいとかじゃないって、あんなのただのパワハラだよ。それに：
けどほら、やつとこうして舞台に立ててるんだし

モモヤマ 立てるつて3人しか劇団員いないんだからそりや立てるよ

キビツ

いや：モモちゃんの気持ちは分かるよ、けどほらここに入った時にさ、約束したじやん、ほら、あそこで、なあ？ほらあの駅前の居酒屋でさ！俺たち三人がこの劇団の看板になつて劇団ＫＫを盛り上げようつて！絶対売れようつて！

モモヤマ

けどもうついていけないよ：お芝居することは好きだよ、けどこのままここにいたら芝居 자체嫌いになつちやいそうだし、コイズミさんのやり方は絶対間違ってる

キビツ

うん、うん、その、だから気持ちは分かるけど

ヨウコ

なんで今日セリフ覚えてこなかつたの？

キビツ

え？ おい

ヨウコ

覚えてこいつて言われたよね？ それはコイズミさんにああ言われても仕方ないんじやなかな

キビツ

え？ おい、どうしたー？

モモヤマ

…それはそうだけど、私だつてバイト忙しいしそれに…

ヨウコ

私だつて！

何か言おうとしたが言葉を飲み込むヨウコ

モモヤマ

なに？

ヨウコ

いや、たしかに稽古中のコイズミさんの暴言、人は見た目がどうだとか言

うような差別的なところは大嫌いだし、人間としても好きにはなれない。けど、あれだつて一つの演出なのかもしれないし、精神的に追い込んで私たちの中から湧いて出る何かに期待しているのかもしれないよ

モモヤマ

そんなの演出なんていえないと思う、そもそも演出家だからって何やつ

てもいいわけじやないと思う

ヨウコ

思う思うつて、モモちゃんさつきから意見がハッキリしてないじやん

キビツ

ちょっと、ヨウコどうしたんだよ

ヨウコ

私たちは売れなきやいけないんだつて！

キビツ

え？

ヨウコ

…コイズミさんがああいう演出する事は知つてたでしょ？ ね？ …少し頑

モモヤマ

張つてみようよ

キビツ

ちよつと

沈黙する一同

ヨウコ

ごめん、ちよつとだけ本読みしない？ …あ、その前にお手洗い行ってくる

ね

稽古場から出て行くヨウコ

キビツ
どうした？なんか珍しくピリピリしてたねー…、え？で、本当に辞めんの？聞いてないよ！

ため息をつくモモヤマ

#4

田中家の自宅リビング。明かりはついていない。テーブル、それを囲んで椅子三つ置いてある。下手には椅子が二脚並んでいる。ヒナタ椅子に腰掛け音楽を鼻歌まじりに聴いている。玄関の開く音。ナツが下手から入ってくる。ナツが壁のスイッチを押すと明かりがつく。

ナツ
ヒナタ
ただいま
おかげり

voice over 機能で携帯から機械的な声で「一時停止ボタン」「一時停止」となる。音楽が消える。母の仏壇に向かい手を合わせるナツ

ナツ
音楽聴いていいのに、あれ、明日学校じゃないの？

ナツ
ヒナタ
じゃあもう寝た方がいいんじゃない?
うん、もうちょっとしたら寝ようかな

ヒナタ もうすぐ帰るつてさつき連絡あつたよ

ナツ ヒナタ
あ、さつき、なつちゃんが作つたお酒のCMまたテレビで流れてたよ
いや、ちょっと関わつただけで私が作つたわけじゃないから

ナツ ヒナタ
： 関わつてたら一緒だよ

•

ナツ
あ わ ん 今度の如きの舞台へいくと一緒には行かない
：ちょっと仕事で忙しいから無理かもなー

ナツ
ヒナタ
へえー
だからさ、予定空けられそうだつたら一緒に行こう、あ、私とじやなくとも

ナツ いいからさ、どこかで
 そうだね

玄関の開く音

ヒナタ あ
アツシ ただいま
ヒナタ おかげり
アツシ 遅くなりましたー、飯食つてないよな?

仏壇に手を合わせるアツシ

ヒナタ 私もう食べたから大丈夫だよ
アツシ ナツはまだだろ?
ナツ うん、まだだけどあんまりお腹空いてないから大丈夫
アツシ 若いうちはちゃんと飯食べないとダメだぞ
ナツ もう2、3だけ
アツシ 十分若いだろ

ナツ いいの、あ、私作るからお父さん先にお風呂入つてきなよ。お疲れなんだか
アツシ ら
ナツ 何言つてんだよ、お前だつて疲れてるだろうに
アツシ いいから、行つてきなよ

面倒くさがりながらもアツシを浴室に連れていこうとするナツ

ナツ え? ねえ、この手どうしたの?
アツシ あ? どうしたつて、ずっとこうだぞ。ほら朝から晩までシャンプーとかして
るところがなるんだよ。美容師はみんなこうだぞ
ナツ : そんな手の美容師見たことないけど
アツシ 俺の周りには沢山いるぞ

苛立ちを感じた表情のナツ

ナツ ねえ、ちょっとお父さん働きすぎじゃない?
アツシ なんだ? 心配してくれてんのか?
ナツ :
アツシ ありがとう! あ、けど俺だつてまだまだ若いんだからな、働き盛りなんだよ

ナツ

その働き盛りを何十年もやつてゐるじやん
お！

ナツ

もう少し休みもらつてもいいんぢやない？私だつてやつと働きはじめたんだ
し：

ヒナタ

私そろそろ寝るね

椅子から立ち上がるヒナタ

アツシ

おう、明日は何時に家出るんだ？送ろうか？

ヒナタ

もう一人で行けるから大丈夫だよ、それにお父さんお仕事でしょ
本当にもう大丈夫か？

アツシ

うん。あ、お父さんもなつちゃんもお疲れなんだから早くお風呂入つてきた
ら：おやすみー

アツシ

おやすみ

寝室に向かうヒナタ

ナツ

：お姉ちゃんは？
アツシ

今日も稽古なんぢやないか？

ナツ

：ねえ、お姉ちゃんつてうちにいくら入れてるの？

アツシ

ん？なんで？

ナツ

：いや
アツシ

ほーら、早く風呂入つてこいつて！あ、お前、お父さんが入つた風呂の後に

ナツ

入りたいからそんなに先に入れつて言うのか
そんな娘いないでしょ

アツシ

え？
ナツ

いいから、早く行つてきな
アツシ

はいはい

浴室に向かうアツシ

机に座り一息つくナツ。立ち上がりご飯の用意をしようとするナツ。玄関の
扉が開く音。ヨウコが帰つてくる。

ナツ ヨウコ
： ただいま

仏壇に手を合わせるヨウコ

ヒナタはもう寝たの

当たり前でしょ、こんな時間なんだから

そうだよね

ヨウコがナツの横を通り過ぎる

ナツ ねえ、お酒飲んできたの？

ヨウコ うん、ちょっとだけだよ。稽古のあと居酒屋のお仕事だったからさ、すごい
気を遣ってくれるお客様でいつも一、二杯ご馳走してくれるんだ

ナツ 仕事？居酒屋のバイトでしょ？

ヨウコ ‥お風呂入ってくるね

ナツ お父さん入ってるから

ヨウコ ‥

ナツ いつまでこんなことしてるの？お姉ちゃんもう26でしょ？いい大人がさ、
いつまで夢追って女優気取ってんの？

ヨウコ 気取ってなんかないよ、ちゃんと舞台にも立ってるし、テレビの案件もある
し、それでお金ももらって‥

ナツ テレビの案件って1秒か2秒映るか映らないかのエキストラでしょ
でもどこで誰が観てて何がキッカケになるかなんてわからないし‥

ナツ お父さんの手見た？

ヨウコ ‥え？

ナツ お母さんが亡くなつてから朝から晩までずっと働いて、ヒナタを学校に通
わせて、病院に通わせて。で、長女は好きなことやつてます。お姉ちゃんい
くら家にお金入てるの？家のために何かしてくれてるの？

ヨウコ ごめん、分かつてると、迷惑かけてると思つてる。けど、もう少し頑張りた
いの。30歳までには絶対なんとかなるようにな‥

ヒナタ、リビングにやつてくる

ヒナタ あ、お姉ちゃん、おかえり

ナツ ‥

ヨウコ うん、ただいま

ヒナタ 喉乾いちやつてさ

ヨウコ あ、水持つてくるよ。水でいい？

ナツ いいよ、私がいくから

ヒナタ
え？ ありがとう

ギッチンへ向かうナツ

ヨウコ
…どうしたらいいんだろう

ヨウコ あ、ううん

ヒナタ
ヨウコ
：お姉ちゃん、最近お仕事忙しそうだね
え？：うん、舞台公演も控えてるしね

ヨウコ ヒナタ そうたよね、どんな役なんだろう。楽しみだな

ナツ、二つ水を持ってきて一つをヒナタに渡す

ヒナタ
ナツ
あ、なつちやん、ありがとう
うん

ヒナタ水を飲もうとするが少し考えて飲まずにテーブルに置く。ナツ、椅子に座り水を飲む

ヒナタ
あ、次の舞台さタイミング合えば一緒に観に行こうってさつきなつちやんと
話してたしどよ

卷之三

ヒナタ お姉ちゃんすごいよね、あんなに沢山のセリフ覚えてさ、沢山の人の前で演

ヨウコ
…

ナツ
ヨウコ
いや出てるつていうか……

すごいよ、自慢のお姉ちゃんたちだよ。何より、二人とも優しいしね。ビナタ、ごめんね。私もっと頑張るから

ナツ
ヒナタ
…
河言つてゐの?十分頑張つてゐでしょ?

ううん、もつともつとだよ

立ち上がり寝室に向かおうとするヒナタ。支えようとするヨウコ

ヒナタ ありがとう、大丈夫だよ。私の方がもっと頑張っちゃうから。あ、お水、お
姉ちゃん飲んで。

ナツ ヒナタ おやすみ
ナツ おやすみ
：

ヒナタ、リビングから寝室へ。複雑な表情の二人。(浴室から出てくるアツシ)

アツシ
ナツ、上がったよ、お待たせー。おー、ヨウコおかえり。うわ、珍しいな
3人揃うなんて。3人で一緒に一杯飲むか?
ナツ
：お風呂入つてくる

浴室へ向かうナツ。心配そうな表情でヨウコを見るアツシ

溶暗

#5

劇団KKの稽古場。稽古場の掃除をしているモモヤマ。台本を持ちながらぶつぶつとセリフの確認をしているキビツ。

モモヤマ ヨウコちゃん遅いね
キビツ さつき連絡あつて5分前くらいに稽古場着くってさ
モモヤマ いつも一番早いのに珍しいね
キビツ また妹の面倒でもみてんじやない?
モモヤマ あれ、ヨウコちゃんの妹つて:
キビツ うん、目が見えないんだってね
モモヤマ だよね
キビツ どんな感じなんだろうな、目が見えないって

キビツ、目を瞑つて歩いてみる

キビツ あ、意外といけるもんだな

しばらく歩くと稽古場に置いてある椅子にぶつかる

キビツ いてっ！ねえ、椅子があるって言つてよ！

モモヤマ なんかすごく嫌な気持ちになつた

キビツ え？…あ、ちなみにそれで言うと俺まだ怒つてるからね

モモヤマ え？何に？

キビツ 俺に黙つて劇団辞めようとしてたこと

モモヤマ だつて、キビちゃんに言つたら絶対引き止められるって思つたから

キビツ 俺たちソウルメイトだろ？隠し事はなしつて約束したじゃん

モモヤマ なに？ソウルメイトつて。それで言うと私だつてまだ怒つてるからね

キビツ え？何に？

モモヤマ 私に黙つて他の女の子とご飯行つたこと

キビツ いや、だからあれは幼馴染とたゞご飯に行つただけで本当にやましい事なん

モモヤマ てないんだつて

キビツ じゃあなんでご飯行くつて言つてくれなかつたの？

モモヤマ だつて、言つたらモモちゃん嫌な気持ちになるかなと思つて

モモヤマ 嫌な気持ちになるつて分かつてるじゃん！

キビツ いや、だから気遣いというかなんというか

モモヤマ じゃあ、私もキビちゃんの知らない男の人と一緒にご飯行つてくるね

キビツ まあ、言つてくれたら別にいいけど

モモヤマ いいの？いいわけないでしょ？何があるかわからないんだよ？なんで嫌だつ

キビツ て言わないので？

モモヤマ ごめん、いやだ、嫌だよ。でもモモちゃんが行きたいんだつたらその気持ち

キビツ を優先してあげたいなつて話で

モモヤマ 別に行きたくないよ！そう言つことを言いたいんじやなくて

モモヤマ 分かつた、行かないで、本当に心から行かないでほしい

モモヤマ 全然わからない！

キビツ あー、だからごめんつて

モモヤマに寄り添おうとするキビツ。少し息を切らしたヨウコが稽古場に来る

ヨウコ ごめんね遅くなつて

キビツ あー！どうしたの急に？

ヨウコ 急に？

キビツ いや、ちょっとびっくりしただけ

ヨウコ う、うん。ごめんね遅くなつて

カバンを床に置き、発声やストレッチなど稽古に向けての準備をするヨウコ。

少し気まづそうなモモヤマ

あれ？コイズミさんまだ来てないの？

ヨウコ
モモうやん
ハナカニの分前ナレ
涼石いさなが美がいす

モモヤマ
：

ヨウコ
昨日はごめん、モモちゃんの事情も色々あつたのにさ
一方的にあんなこと

モモヤマ
：いや

ヨウコ どうしても今回の舞台を成功させたいって思いが強く出ちやつて…本当にご

モモアマ
ミムの方ニシジマニシ

笑顔になる三ウエ

キビツ
ヨウコ
キビツ
ヨウコ
あー、よかつた。はい、仲直り。（握手を催促しながら）めでたしめでたし
今日シン4からって言ってたよね？ちょっと動きの確認しない？
オッケー、あれ？俺が上手で板付きだつけ？
いや、キビちゃんが下手で私が上手かな

キビツ
ヨウコ
あ、で、音のキッカケで俺が上手に動くのか
いや、まだそのままだね

ヨウコ
うん、
で、しばらく二人のやりとりがあつて、モモちゃんが下手から入つて

キビツ
あ、俺が上手に動くのか
ヨウコ
そうだね

ヨウコ
：今回の舞台さ、すごく面白いじやん。やつとコイズミさんの真骨頂つて感じだし、来てくれるお客さんにも絶対いいものが届けられるよ
確かに！

ヨウコ
稽古は本当に大変だけど、私さ、この劇団でコイズミさんを信じて頑張つて
きてよかったですなって思える本だったんだ
わかる！

ヨウコ

だよね？
モモヤマ

モモヤマ

昨日さ！
ヨウコ

ヨウコ

え？うん
モモヤマ

モモヤマ

：
ヨウコ

ヨウコ

昨日？
モモヤマ

モモヤマ

ごめん：今言うことじゃないかもしねないけど、昨日、稽古のあとコイズミさんにお酒に誘われて

え？二人きりで？
キビツ

キビツ

：うん
ヨウコ

モモヤマ

：最初は普通に今回の舞台や、お芝居についての話を聞いてたんだけど、ちよつとお酒が入つてたらコイズミさんの距離がどんどん近くなつてきて、なんかちょっと怖くなつちゃつたんだよね

キビツ

：何かされたってわけではないよね？
ヨウコ

モモヤマ

うん。でも、昨日が初めてじゃないんだ。お酒の席で距離が近いなつて思つたの

ヨウコ

：
モモヤマ

お芝居は好き、それは本当。だけどコイズミさんに飲みに誘われたら断れないし。飲みに行つたら行つたでボロボロに言われるしで：なんかそういうのも重なつてお芝居に対する気持ちも無くなつてきて劇団を辞めたいつて思つちゃつたんだよね

ヨウコ

：ごめん、全然気づいてあげられなくて

キビツ

あ、えーと…
コイズミ

：稽古場に入つてくる
コイズミ

：揃つてるかー？
コイズミ

「おはようございます」という3人。 演出席に座るコイズミ。 気だるそうな様子

コイズミ

10分後にシーン4から始めるぞ
コイズミ

少し気まずそうなキビツとモモヤマ。苛立ちと悲しみを隠そうとしてるヨウコ。 演出席で机に突つ伏してるコイズミ

コイズミ

いてて、完全に二日酔いだわ。 気分悪い、お前らでストレス発散するか。

おい、モモヤマちょっと肩揉んでくれない？

剣幕な様子でコイズミに近づくヨウコ

ヨウコ コイズミさん！

コイズミ あ？

ヨウコ 私、コイズミさんの舞台を初めて観た見た時、すごく感動したんです。舞台ってこんなに素敵なんだ、こんなに人の心を動かすんだって。私だけじゃないで、キビツくんだってモモヤマさんだってそう思つたはずです、そう思つたからこの劇団に入つたはずです

コイズミ で？

ヨウコ こんなに人の心を動かす作品を作る人ってどんな人なんだろう、きっとすごく素敵な人なんだろなって、この人に着いて行つたら私も人の心を動かすお芝居を届けられるんだろうなって

コイズミ :俺は天才だからな

ヨウコ 今のコイズミさんは違います。自分の立場を利用して言葉や行動で人を傷つける最低の人間です

コイズミ あ？

キビツ ちょっと、ヨウコちゃん

ヨウコ 私は！コイズミさんにどんな事を言われても、どんな惨めな思いをさせられても、いい作品を作る上では必要なことなんだ、役作りの一環なんだ、そう信じて着いてきました

コイズミ だから、何が言いてーんだよ

ヨウコ 今の私たちじゃお客さんに何も届けられない。みんな、コイズミさんを信じられなくなってるから、そうなつてみんな辞めていきました

コイズミ 辞めたいやつは辞めりやあいいんだよ

ヨウコ でも私は、まだやっぱりコイズミさんを信じたい

コイズミ :

ヨウコ あの時の感動が胸に残つてるから、私にお芝居をやりたいって思わせてくれたから

コイズミ :

ヨウコ 妹が：観にきてくれるんです。お父さんが観にきてくれるんです！楽しみにしてくれてるんです、いい舞台を届けたいんです！みんなで売れたいんです！

ヨウコ :

モモヤマ ヨウコちゃん、ごめん！

ヨウコ 違う、モモちゃんは何も悪くない！

モモヤマ だつて…

ヨウコ

お願ひします…もう一度信じさせてください…お願ひします！

ヨウコの言葉と思いに心動かされているキビツとモモヤマ

モモヤマ …お願ひします

キビツ お願ひします

コイズミ …バカじやねーの。…帰るわ。3人で昨日やったシーンの自主稽古しておけ。明日も同じ時間な

稽古場から出ていくコイズミ。呆然としているキビツ。

溶暗

#6

幹線道路沿い、ベンチに座つて缶ビールを飲んでるコイズミ。視覚障害者用音声信号の音や行き交う人々の足音が聞こえる。少々酔っ払つてゐる様子。

立ち上がり、目を瞑りながら空を見上げると、客席からの大きな喝采を思い出す。目の開け俯くと喝采は消え現実に戻る。
頭を抱えてもう一度座るコイズミ。

上手からボロボロの服を着た浮浪者のような男（シニガミ）が歩いてくる、男がコイズミの隣に座ろうとする。コイズミ少し躊躇いながらも荷物を自分

の横に置く、浮浪者の男（シニガミ）、少し戸惑い上手へハケていく

上手から白杖を突きながら学校帰りのヒナタが歩いてくる

ヒナタがベンチの方に向かう。ヒナタの白杖がコイズミの足に当たる

ヒナタ すみません

手探りでベンチに座ろうとするが手がコイズミのバッグに当たる。コイズミ、渋々とバックを引っ込め缶ビールを一口飲む

ヒナタ ん？ここ座つてもいいですか？

コイズミ …勝手にどうぞ

ヒナタ ありがとうございます

ヒナタ、カバンの中から魔法瓶をあけ口につける。

飲み物を飲み一息つくヒナタ。隣からのアルコールの匂いを感じ

ヒナタ 私も早く大人になりたいな

ヒナタ は？

コイズミ あ、すみません！

コイズミ …なんで大人になんかなりたいんだよ

ヒナタ …働くから

コイズミ :

ヒナタ 私が働けたらもつとみんなが仲良くなれるから

コイズミ …何言つてんの？

コイズミ …

ヒナタ これからお友達と遊びに行くんだろうなーって声とか、家族が待ってるお家

へ帰つていくちよつと疲れたお父さん達の足音。お家に帰つてご飯を作るのかな？パンパンに入った買い物袋が擦れる音：色んな人たちの生活や姿や人生が、ここに座つて耳を澄ませているとなんとなく分かるんです。そして、今日もみんな一日頑張ったんだな、私も頑張らなくちやつて励まされるんです

コイズミ :

ヒナタ 今日1日を一生懸命生きたみんなは、どんな顔してるのかなって、想像する

だけでなんか幸せな気分になるんです

コイズミ :

ヒナタ 今日もいい一日だつたなー

コイズミ、ベンチから立ちあがろうとする

ヒナタ あ！すみません！私もう行くので、座つててください

コイズミ :

ヒナタ 失礼しました…また

ヒナタ、白杖を突きながら下手に向かって歩いていく。コイズミ、缶ビールを飲み干す。ベンチから立ち上がり、下手に向かって歩きだすと先ほどの浮浪者（シニガミ）のような男が下手から現れコイズミの後をつけている。不気味に思いシニガミに気を取られていたコイズミ、障害物（縁石）に躊躇しそのまま幹線道路へ体が傾く、急ブレーキの音

溶暗

#7

真っ白な世界。中央の椅子に座らされているコイズミ。シニガミがロープコイズミを椅子に括り付けている。タカムラがシニガミに気づかれないようコイズミをコツコツと足蹴りしている。エンマ下手より登場

エンマ すみません、寝坊しましたー

エンマ、タカムラが足蹴りしてるので気づき焦つて止めに行く

エンマ あー、ちょっと！タカムラさん、タカムラ！

タカムラ おはようございます。遅いですよ！

エンマ いや、ちょっと！今何してたの？

タカムラ え？何のことです？

シニガミ おはようございます。今回もよろしくお願ひします

エンマ シニガミさん、相変わらず言葉に心がないですね

シニガミ は？

エンマ いやいや、どうぞ今回もよろしく

シニガミ 準備は整つてます

エンマ よし、じゃあ始めるか

タカムラ分厚い資料を眺めている、エンマ、コイズミの後ろに周り手を大きくパンつと叩く。手を叩くと眠りについていたコイズミがビクッと目を覚ます

エンマ おはよう！

コイズミ ん、んーん？どこだここ？

エンマ はい、どうもー

コイズミ は？

コイズミ、立ち上がるろうとするが紐で括り付けられているため身動きか取れない

コイズミ ん？あ、おい！なんだお前ら
タカムラ とりあえず落ち着いてください

コイズミ ふざけんじやねーぞ、なんだよここ？誰だお前ら

コイズミ、シニガミに気が付く

コイズミ お前、さつきの！

シニガミ 先ほどはご親切にどうも

コイズミ お前、おい！こら、この紐解けー

エンマ だから落ち着けって。まずは、えー、なんだ、この度はご愁傷様でした

コイズミ は？なに？

エンマ ん？さつきの出来事覚えていない？

コイズミ なんのことだよ

目配せをするエンマとタカムラ、タカムラ一度咳払いをし

タカムラ コイズミコウイチ、31歳

エンマ キヨンキヨン

タカムラ コンビニまで缶ビールを買いに行こうとした際、お酒に相当酔っていたせいもあり縁石につまずき、歩道からよろけて沿線道路へ踏み出してしまって、その際走っていたトラックに跳ねられる寸前に天界にて確保

コイズミ あ、そうだ。お前、俺の後つけてきただろ！

シニガミ いいや

コイズミ ふざけんなよ！あ、ちょっと待て。跳ねられる寸前に確保ってなんだよ

タカムラ あなたはまもなく亡くなる運命にあるということです

コイズミ は？死ぬ運命って？バカか！てめーらふざけたこと言ってるとマジで殺すぞ

エンマ まあ、もう決まりでいいよね

タカムラ はい

コイズミを立ち上がりろうとするが強引に椅子に座らせるエンマとタカムラ

コイズミ いてっ

タカムラ コイズミコウイチ。あなたは幸運なことに、この度天界の裁きを受けられる

こととなつた

コイズミ あ？

タカムラ ありがたく思つた方がいい、天命を全うした際、ほとんどの人間は裁きを受ける事もできず、この天界にたどり着くこともなく肉体も魂も散り散りに朽ち果ててしまうんだから、…たまたまお前に目をつけたシニガミさんに感謝するんだな

コイズミ

だから！さつきから何訳わかんねーことを

エンマ

タカムラ こいつの猶予期間は？

タカムラ

一週間です

タカムラ、持っていた資料をエンマに渡す

エンマ えー、これより一週間、多くの人を罵り蔑み、傷つけてきたその汚い口から言葉をすること。並びに下界の者に危害加えることを禁ずる

コイズミ は？

エンマ これよりシニガミさんがお前の監視に入り審判をする

タカムラ 言葉というものを発した瞬間、並びに人に危害を加えた瞬間、シニガミさんが警告のカードを出す。

シニガミ、イエローカードとレッドカードをコイズミに見せる

コイズミ いや、ちょっと待て、お前らマジで…

タカムラ 累積で2枚になった場合あなたの魂はシニガミさんが刈り取ります。人生の

退場処分です

コイズミ マジでふざけんじやねーぞ

タカムラ いいですよ、信じなくても。速攻退場になるだけですから

コイズミ テメエ…

シニガミがゆっくりコイズミに向かって歩き出し頭に手を置く

シニガミ さつきはどうも。僕へのたった一つの行動によりあなたにもう一つの特典がついた。

コイズミ は？

エンマ お前が忌み嫌っていた最もなりたくない姿に変えてやろう！

辺り一体が薄暗くなり、風が轟轟が吹き乱れる

梯子にかかっていた白い布がコイズミの周りを舞っている。シニガミ、着ている汚らしいゴミのような羽織と帽子をコイズミに着用させる。

エンマ 一週間耐え切ったならお前の魂は現世に蘇る、運がいいのか悪いのか。まあ、とくと味わつてこい。

辺りはゴウゴウと風が吹いている。白い布がコイズミを覆い、スポットによりシルエットのみが映し出され悲鳴にも似た雄叫びを上げる

暗転

8

田中家、薄暗いリビング。ヨウコが帰宅し部屋の明かりをつけるとアツシがテーブルの椅子に座っている。

ヨウコ

あ、帰つてたんだ

アツシ

おう、おかえり。あれ? 今日稽古じゃないの?

仏壇に手を合わせるヨウコ

ヨウコ

いや……うん、早めに終わつたから

頭痛がひどいのかこめかみのあたりを手で抑えるアツシ

アツシ

そうか! ……あいたたたた

ヨウコ

ん? 大丈夫?

アツシ

おう、大丈夫大丈夫!

ヨウコ

……あれ? お父さんこそ今日仕事は?

アツシ

ああ、お店が暇だつたから早めに上がらせてもらつて

ヨウコ

……そななだ

アツシ

……どう? 稽古は順調か?

ヨウコ

……うーん

アツシ

次の舞台、出番は多いの?

ヨウコ

……まあまあかな。出番は多いよ、出演者少ないし

アツシ

楽しみにしてるぞー

ヨウコ

……

アツシ

……楽しんでやれてんのか?

ヨウコ

え? なんで?

アツシ

何年一緒にいると思ってまんねん、親を甘くみたらあきまへん

ヨウコ

なんかあつたか?

……

いや

アツシ
ヨウコ
アツシ
ヨウコ
アツシ
…友達もナツも、みんな普通に企業で働いて、自立してるんだよね
で？それがどうした？
…私、迷惑かけてるよね？お父さんに、ナツにも、ヒナタにも…
こんなことしてていいのかな…
こんなことって？
お芝居して、バイトして…

アツシ、ヨウコの言葉に笑いながら

アツシ
かかでるぞ

アツシ
かか

アツシ でも、お前の判断は正しいから大丈夫

アツシ
お前もナツもニナタもなんなが後悔の

て安心して成仏できねーだろ

アツシ
迷惑かけていいんだぞ！その迷惑

ヨウロ
ターナーはナノフが半端だ！

アツシ
あ、その代わり他の人に迷惑かけちゃダメだぞー頼れる人だけとことん頼
し。
「…………」

ヨウコ
⋮

アツシ
お前たちはさ
俺たちの宝なんだから

アツシの言葉に、ヨウコの溜まっていた感情が溢れる

アツシの胸の中で涙を流すヨウコ。ヨウコを抱きしめるアツシ

大きな雨音が聞こえる薄明かりの中、コイズミが舞台中央で自分の掌を見つめている。

しばらくすると上手にある梯子（自分の家の扉）をドンドンドンと叩くコイズミ。もちろん鍵を持っていないので入ることができない。

舞台上をぐるりと回って舞台奥にある梯子（扉）を叩くも相手にされず突き飛ばされてしまう。

再びボックスを回って下手の梯子（飲食店？）の扉を叩き入ろうとするも突き飛ばされまた倒れ込む。

唚然とし舞台中央のボックス前に戻り正面に溜まっている水溜りを覗き込み姿形が変わってしまったことを受け入れる。

コイズミの横に不気味に立つてのシニガミ。

コイズミ、何かを思い出したかのように上手へハケる

溶暗

劇団KKの稽古場。ヨウコが演出席の横に立つてキビツとモモヤマの芝居を見ている

キビツ 「なぜ、なぜだ？見えていないのか？すぐそばにいるのに！」

モモヤマ 「どこ？どこにいるの？今も私のそばにいてくれてるの？」

キビツ 「この俺を、受け入れてくれる人はもういないのか？」

モモヤマ 「恨みます、神様、貴方を。憎みます、私たちの運命を」

キビツ 「もう届かないこの思いは閉ざされた愛に向かって叫び続けるしかないのか！」

ヨウコ

ごめん、キビちゃん。今の台詞なんだけど、わりとこの後の展開で大事につくる台詞だからお客様の記憶に残るようにもうちょっとゆっくり言ってみてもいいかも

キビツ オツケー、了解

ヨウコ モモちゃんはいい感じじゃん！もうセリフも完璧だね
モモヤマ まだまだ不安なところはあるけどね
ヨウコ そんなこと言つたら私もだよ

キビツ

次どこのシーンやろうか？ってかヨウコちゃんのシーンもそろそろ当たった
ほうがいいよね？

ヨウコ ありがとう、お願ひ！あ、その前にちょっとだけ休憩しようか

キビツ もち！

ヨウコ 15分後に再開でいい？

キビツ あざす！

モモヤマ うん！あ、コイズミさんから連絡きてる？

携帯をチェックするキビツとヨウコ

ヨウコ いや、私には来てない

モモヤマ こんな時間まで寝てるってことはないだろうし、流石にちょっと心配にはな
つちやうよね

キビツ 俺にも来てないわ

モモヤマ

ヨウコ ちょっとコンビニ行つてくるね、買つてくるものある？

モモヤマ

大丈夫！

キビツ 大丈夫でーす

ヨウコ りょうかーい

ヨウコ、稽古場を出る。上手奥にあるお手洗いに向かうモモヤマ、台本の確認をしたり携帯をいじったりしているキビツ。下手よりくたびれた様子のコイズミが入ってくるその後ろにはシニガミが憑いている。コイズミゆつくり演出出席の方へ向かう。

キビツ うわーーーー

キビツ、稽古場に置いてある箒を手に取りへっぴり腰になりながら

キビツ なんなんですかーあなたは、ちょっとダメですよ

コイズミ

コイズミ、必死にキビツに向かっていく「俺だ！俺だ！」とアピールをする
コイズミ

シニガミ 分かるわけないですよー、何もかもが違うんだから

コイズミ、シニガミの方に少し目を向けるが再びキビツに向かってアピール

をする、コイズミ、キビツに向かっていき肩を揺する

キビツ なんだよ！触るなよ！

コイズミをドンつと押し返すキビツ

キビツ 汚ねえなー！

コイズミ、咄嗟に声が出てしまう

コイズミ いてつ、なんだと、おい！テメエ！

シニガミ、ピピーと笛を吹きイエローカードを出す。

コイズミ おい！ちょっと待て！今のは！

ピピーと笛を吹きイエローカードを出している

キビツ え？ん？

シニガミ あーあーあー、これでもうあとが無くなっちゃいましたね、こんなことで勿体無い

コイズミ、怒りに震えながらももう一度キビツに向かって行く。お手洗いから戻ってきたモモヤマ、キビツが何者かに襲われてると思い驚く

モモヤマ きやー

キビツ お、おい、これ以上近付いたら、ほ、本当に殴るぞ！あ、も、モモちゃん警に通報して！モモちゃん！

モモヤマ、稽古場に置いてある笛を持ちコイズミと対峙しブンブンとコイズミに向かって笛を振り回す

モモヤマ やめて！出てつて！出てつて出てつて出てつて出てつて！

コイズミ、後退り、悲しさと悔しさの入り混じった表情で稽古場を出る。モモヤマ、息を切らしながらペタリとしゃがみ込む。

キビツ なんだつたんだ、あいつ…あ、モモちゃん大丈夫？

モモヤマ …うん

ヨウコ、コンビニから戻つてくる

キビツ うわ！

ヨウコ え？ん？何？どうしたの？

キビツ あ、いや…なんか変なやつに襲われて、いきなり入つてきて

ヨウコ え？

溶暗

1 1

再び雨音が聞こえる。

8 頭と同じ舞台セット位置。

舞台中央奥の梯子をドンドンドンと叩くコイズミ、また中央の椅子を回り下手の梯子を叩く、また突き飛ばされる。

やはりどこに行つても相手にされることはない。椅子をぐるりと一周し中央のベンチに座り込む。

雨が止み車の交差する音が聞こえる。幹線道路付近ベンチ。途方に暮れた様子のコイズミ。

シニガミ いま、どんな気分ですか？

コイズミ :

シニガミ あ、いいんですよ。僕には言葉を発しても、僕は下界のものではないですか
ら。あ、ただ、僕に向けた言葉のフリをして下界のもの向けた言葉と僕が判
断したら速攻、退場ですけどね

コイズミ :

シニガミ 僕は嘘をつきません

コイズミ :

シニガミ どんな気分？

コイズミ : 最低な気分だ

シニガミ そうですか

人々の行き交う音。下手より登校中のヒナタが白杖を付いて歩いてくる。

ヒナタ、ベンチをカンカンカンと白杖で叩き手探りでベンチを確認し座る。

コイズミ、ヒナタに気付き一瞬接触を試みようとするが、黙考し、接触を諦める。

ヒナタ、魔法瓶をあけ、一口飲み。行き交う人々の足音を聞いている。

コイズミ、ゆっくりベンチから立ち上がり歩き出す。

ヒナタ あ、また会いましたね

コイズミ ⋮?

ヒナタ 今日は、お酒飲んでないんですか？

コイズミ ⋮

ヒナタ 今日はいい天気、いい一日になりそうですね

コイズミ ⋮

コイズミ、ゆっくりヒナタから離れようと歩き出す

ヒナタ あの、何か⋮嫌なことでもあつたんですか？

コイズミ ⋮

ヒナタ なんだか、すごく悲しい足音がするから

コイズミ ⋮

ヒナタ、ベンチから立ち上がり

ヒナタ 私でよかつたら話聞きますよ、お話ししませんか？

コイズミ ⋮

ヒナタ 迷惑⋮ですか？

コイズミ ⋮

ヒナタ ごめんなさい

コイズミ ⋮

ヒナタ この道、通学路だから毎日通るんで、何か悩み事とかがあつたら言つてくださいね。いつでもお話を聞きますから

コイズミ ⋮

ヒナタ、ベンチから立ち上がり

ヒナタ では、また。

コイズミ ⋮

ヒナタ

ヒナタ

いってきます

上手に向かって歩き出すヒナタ。それを見送るコイズミ、ゆつくりと時間が流れている。信号機の音、車の行き交う音、人々の話し声、蝉の鳴き声、明かりがゆつくりと夕焼けに変わる。

学校終わりのヒナタ、上手から白杖を突いて歩いてくる、再びベンチを確認し座る。しばしの間。ヒナタ、立ち上がりコイズミの方に笑顔で軽く会釈をし下手に向かって歩き出す。コイズミ、ベンチにヒナタの魔法瓶が置いてあることに気づきヒナタを追う。ヒナタ、少し歩いたところで縁石に躊躇車道の方に体が傾く（#5の終わりと同じ）、コイズミ、慌ててヒナタの方へ向かい体を支える。その反動で白杖が下手袖（車道）に飛んでいきバキッと車に潰された音。驚いた様子のシニガミ、

ヒナタ あ：

シニガミ ほう：

コイズミ ⋮

ヒナタ ⋮ありがとうございます

コイズミ、ヒナタを支えながら白杖が壊れてしまつたことを気にかけているが、周りからの不審な視線を感じ思わずヒナタから離れる。

ヒナタ わっ

棒立ちになるヒナタ。コイズミヒナタニ魔法瓶を渡す

ヒナタ ありがとうございます

コイズミ ⋮ ⋮

ヒナタ ⋮ ⋮ どうしよう…

ヒナタ、携帯を出し電話をかけようと試みるが少し考えた末、電話のボタンを押す「5時45分」とvoice overが読み上げる黙考し携帯をカバンにしまう。ゆつくりと探し探しの感覚でベンチに戻ろうとするヒナタ。

コイズミ、少し躊躇。ヒナタに向かって歩き出す

シニガミ 何するつもりですか？

コイズミ
⋮

ゆっくりとヒナタの手を握るコイズミ。少し驚いた様子のヒナタ

ヒナタ どうしたんですか？

コイズミ ⋮

コイズミしばらく考えた後、人差し指を立て、ヒナタの掌に手書き文字を書いている

シニガミ 危害を加えたら次は速攻⋮

ヒナタ お？

コイズミ、ヒナタの手を自らの頭に乗せて頷く。ヒナタの掌を戻し、再び手書き文字を書く。

ヒナタ く？

もう一度ヒナタの手を頭に乗せて頷くコイズミ

ヒナタ おくる？…お家まで…送つてくれるってこと？

コイズミ、少しの躊躇いながらもう一度ヒナタの手を頭に乗せて頷く。ヒナタ、少し考えたのち

ヒナタ ⋮よろしくお願ひします

こんな自分でも受け入れてくれるのために何か助けになつてあげたいという気持ち、ふれあい、思いもしなかつた自分の行動に驚きとほんの少しの喜びを感じるコイズミ

ヒナタ まっすぐです

ヒナタ、コイズミの手を握りながら家までの道を案内する、途中目の前に障害物（ボックス）などがあるとコイズミがそれを避けてヒナタを導く、ヒナタ「ありがとうございます」とコイズミに声をかける。

ヒナタ … 右です

工事現場を避けたり、横断歩道を渡つたり

ヒナタ まっすぐです！

お散歩中のワンちゃんと触れ合つたり、道中様々なことがある。

ヒナタ なんだかさ
コイズミ …
ヒナタ 私の目になつてくれるみたいですね
コイズミ …
ヒナタ 風が気持ちいいな…
コイズミ …
ヒナタ 久しぶりに、歩くのが楽しい！

嬉しそうなヒナタ「まっすぐです」「右です」「左です」などと声をかけ家までの道をコイズミに伝える、何も障害物がないのに避ける動作をするコイズミとそれをぴょんと飛び跳ね避ける動きをするシニガミ

ヒナタ なにがありました？

コイズミ、ヒナタの掌に「い、ぬ」との手書き文字

ヒナタ いぬ？

コイズミ、ヒナタの掌に「の、う、ん、ち」との手書き文字

ヒナタ 犬のうんち？

コイズミ、ヒナタの手を頭に置き頷く。大笑いするヒナタ、それを見て少し微笑むコイズミ。ヒナタ喜びながら「まっすぐです」と掛け声、再び歩き出す二人。ゆっくり明かりが落ちていく

暗転

田中家のリビング。ヒナタとコイズミダイニングテーブルの椅子に隣り合わせに座っている。ソファに座っているナツ・アツシは仏壇に手を合わせている。

アツシ

母さんが亡くなつてもうすぐ15年：色々あつたな、俺は確かに頼りになる父親じゃなかつたかもしれない

ヒナタ

アツシ ありがとう。でもそうちやないんだ、お前たちが俺をかっこいい父親にしてくれたんだ。お前ももう大人だ。今だから言うけど、ナツが生まれてからヒナタが生まれるまで結構時間がかかってさ、母さんがヒナタを授かつた時、父さんもう嬉しくて嬉しくてな、父さんはもちろんだけど、あの気の強い母さんまで泣いてた。親戚みんなに電話かけて報告したな、弦担ぎになぜか坊主にまでしたな。今思えばなんで坊主にする必要があつたのかわからんだけどさ…本当、立派に育つてくれた。大切な娘なんだ：

ヒナタ

アツシ う、うん
アツシ で、あなたは誰なんですか！
ヒナタ だから友達だつて

アツシ

アツシ 大切な娘に変なことしてないでしょうね？

ナツ

アツシ おかしいだろ！
ナツ おとうさん

アツシ

アツシ なんで男を勝手に家に上げてるんだ、しかも二人きりだつたんだろ
ナツ 本当にテーブルでお茶を飲んでるだけだつたよ

アツシ

アツシ ヒナタ 白杖を壊しちやつて帰れなくなつたからお家まで送つてもらつたの、それでお礼にお茶でも出そうと思つて

アツシ

アツシ コイズミ アツシ か、か、彼氏なんですか？まずはあなたの年齢から教えてください

コイズミ

アツシ ヒナタ アツシ なんでずっと黙つてるんですか？この家に黙秘権なんてないですよ

アツシ

アツシ ヒナタ アツシ いや、さつきもう大人だつて
アツシ ちょっと黙つてくれ

ナツ お父さん、ちょっとヒナタの話を聞いてあげよう
アツシ ナツは知つてたのか？

ナツ
アツシ
何を？

アツシ
彼がいることを？

ナツ
：ねえ、確かになんでさつきからずっと黙ってるんですか？何か言わないと永遠にこれが続きますよ

ヒナタ
アツシ
あ、ちょっと待ってね（コイズミに）なんて説明すればいい？

アツシ
コソコソ話をするな！

コイズミ、ヒナタの手のひらに文字を書こうとする

アツシ
娘に触れるな！

ナツ
ちょっと、お父さん落ち着いて！

アツシを制するナツ

コイズミ
：

ヒナタ
：あ、この前、家が全焼したみたいで、その時に喉を火傷して、しばらくしゃべれないんだって、すみませんだって

アツシ
え…：そうなんですか？

コイズミ、ヒナタの方を向く
ヒナタ、コイズミの腰にぽんぽんと手を当てる

アツシの方を向き頷くコイズミ

アツシ
こう言っちゃあ失礼なんですが、あの、その火事のせいでそのような身なり
というか格好というか

ヒナタ
アツシ
ナツ
コイズミ
：
あ、いや
え？
あの、今は家はどうなってるんですか？

ヒナタの手に指文字をする

ヒナタ
ナツ
アツシ
：ないって
え？
仕事は？

ヒナタに指文字をしようとするがなんて伝えていいか分からぬコイズミ

ヒナタ …うーん

少し困った様子のアツシ

アツシ そうか：本当に彼氏じゃないんだな
ヒナタ うん

アツシ 本当にただの友達なんだな
ヒナタ うん

アツシ じゃあ、家が見つかるまで家にいなさい
ヒナタ ？

ナツ は？

アツシ え？

ナツ ちょっとお父さん何言つてんの？

アツシ お前、家がなくなつてこんな状態で喋られない困つてる人を放つて置けない
だろ

ナツ いやでも！

コイズミの方をチラツと見るナツ。少し気まずそうなコイズミ

アツシ ただ、部屋は余つてないですから寝るのはここでもいいですか？あと、娘に
変な真似はするなよ。その時はこうだから、こう！（チョークスリーパー
的ジエスチャー）、家が見つかるまでですからね、早くみつけるんですよ、そ
れでいいですか？

戸惑うコイズミ

ヒナタ うん、お父さん。ありがとうございます
ナツ ちょっと勝手に決めないでよ！私嫌…
アツシ 俺たちも散々色んな人に助けられてここまで生きてこれたからな、困つた時
はお互い様だ

アツシの言葉を受けるコイズミ

アツシ よし飯でも食うか。お前らまだ風呂入つてないだろ？飯の準備しておくから
先に入つてきな

ナツ ヒナタ
うん

…ヒナタ先入つておいで

ヒナタ浴室へ向かおうとする。コイズミ、ヒナタを支えて一緒に浴室へ行こうとする

アツシ …ん？ ちょ待ておーい！ どこに着いて行こうとしてるんだ
コイズミ …？

アツシ 大丈夫だから、家の中は
コイズミ

ヒナタ

ありがとう、家の中は全部把握してるから大丈夫だよ

申し訳なさそうなコイズミ。ふふっと笑うヒナタ

浴室へ向かうヒナタ。その場に残るコイズミ

コイズミをまだ受け入れられないのか、ため息をつき少し不機嫌そうなナツ

ナツ お父さん、優しすぎるよ

アツシ は？ 優しかつたらダメなのか？

ナツ 別にダメじゃないけど

アツシ 俺から見たらお前たちの方が優しいって思うけどな、ナツもヨウコもヒナタ

ナツ も私は… 優しくなんかないよ

アツシ ヨウコのことか？

ナツ え？

アツシ ごめんな、結局俺が頼りないからそうなつたんだよな

ナツ 違う、ごめん。いやそういうことを言いたいんじや

アツシ …俺にだって人に優しくなれない時はあつたぞ

ナツ …え？

アツシ でも、お前たちが俺を変えてくれたんだ

コイズミ …？

ナツ アツシ

ヒナタの事があつて、その後すぐ母さんが死んじゃつて、あの時の俺は誰に何を言われても、俺の何がわかるんだ？ 俺の苦しみを分かられたまるか。なんで俺だけこんな思いをしなきやいけないんだつて… 心に余裕なんてなかつた

ナツ …

アツシ 人の言葉全てが刃物のように感じた、自分を馬鹿にしてるよう感じたんだ。

アツシ
「私のせいでお父さんはそんなに辛そうなの？私は全然平気だよ」って「目の見えない世界だっていいもんなんだよ」って

ナツ
アツシ
⋮
そしたら横にいたお前ら二人がさ俺にこう言つたんだよ「(ヨウコ)ヒナタを

そしたら横にいたお前ら一人がさ俺にこう言ったんだよ（玉ウ玉）ヒナタを馬鹿にしないで！（ナツ）お父さんが可哀想って思つたらヒナタ本当に可哀想になつちやうじやん」

ナツ
⋮
【シンクロ】

アツシ
救われたな
お前らに
コイズミ ：

アツシ
こんな小さな体のお前らは自分を受けてくれてまことに前を向いて一生懸命に生きてるってのに、俺は何をやつてるんだろうって。あの時のヒナタとナツとヨウコのあの言葉で俺は変わる事ができた

アツシ
世の中にはさ、目に見えてないだけで色々な苦しみを抱えて生きてる人間が
沢山いる

コイズミ：アツシ だからさ俺は常に人に優しくありたいなって思うんだ、常に人の裏側の気持

ナツ
アツシ
⋮
ヨウコはナツに迷惑かけて申し訳ないって思つてゐるぞ、ナツの家族思いの優

さもちゃんとヨウコに伝わってる。お前たちの優しいところ本当母さんそつくりだ、みんな一生懸命がんばってる。ナツ、ヒナタと3人で一緒に舞台観に行こうな！

心が揺れるナツ。玄関の扉が開く音。ヨウコが帰つてくる

仏壇に向かおうとするがコイズミの存在にびっくりするヨウコ。ヨウコの登場に戸惑うコイズミ

ナツ
お姉ちゃん！！

ヨウコ

ナツ 私、お姉ちゃんを言い訳にしてた、自分がちゃんとしなきやいけないのは、

お姉ちゃんが好き勝手やつてるからだつて

ヨウコ

ナツ でも違うの！…お姉ちゃんが初めて今の劇団の舞台を観に行つて帰つてきた時、目を輝かせながらお姉ちゃん私にこう言つたの、こんな舞台を作りたい。こんな作品にでたい。こんな女優になりたい！絶対舞台で人の心を動かしたい！劇団々々つてすごいんだよ！つて

コイズミ

ナツ その時私思つたんだ、あ、私にこんなに熱量持つてやりたいって思えることないや、お姉ちゃんみたいにはなれないんだなつて。私は、ずっと私がやりたいことできないのはお姉ちゃんのせいにしてた、本当は全部自分のせいなのに。やりたいことがないのをお姉ちゃんのせいにしてた…。

ヨウコ

ナツ ごめん、嫌なことばかり言つて、ごめん！お姉ちゃん頑張つてるのに本当にごめん！

ヨウコ

ナツ こちらこそ、ナツに苦しい思いさせちゃつてごめん

コイズミ

ナツ ううん。舞台…楽しみにしてるから！

ヨウコ

コイズミ

目を合わせて笑い合うヨウコとナツ。何かを感じるコイズミ
久しぶりにみるナツの笑顔に喜ぶアツシ

アツシ お！やつと3人揃つたな！久々に乾杯でもするか

ヨウコ

ナツ うん！

冷蔵庫にお酒を取りに行くアツシ

アツシ ほらこれナツが作つたCMの缶チューハイだぞ

ナツ だから私が作つたんじゃないって

アツシ 同じ同じ、二人と乾杯できるなんて夢が叶つたわ、じゃあ、ヒナタには悪い

けどチームアダルトで先に乾杯しますか？お前らと乾杯できるなんて幸せもんだなー俺は。あ、あとはヒナタが二十歳になるのを待つだけかっと。

3人で乾杯しようとするがコイズミに気付き

アツシ お、あんたも飲みますか？

コイズミ 少し戸惑うがコクンと頷く

アツシ ちょっと待っててねー

もう一本缶チューハイを取りに行こうとするアツシ

アツシ

うううう

アツシ、こめかみを抑えて急に苦しみ出し、そのままばたりと倒れ込む

ヨウコ

お父さん？お父さん？

ナツ

お父さん？お父さん？

コイズミ、シニガミの方を向き慌てる、何もできない自分がもどかしい様子

ヨウコ お父さん！お父さん！……！

救急車のサイレンの音が鳴り響く

暗転

#13

翌日、夕方。幹線道路沿いのベンチに座っているヒナタとコイズミ。ヒナタは両手で顔を包みながら俯いている。コイズミ、正面を向いて立っている

お父さん…くも膜下出血かもしれないって、お姉ちゃんが…

ヒナタ 意識が戻るかわからなって

コイズミ

ヒナタ …過労が原因かもって…お母さんの時と一緒かもってお姉ちゃんが…

コイズミ ∵

ヒナタ、涙を堪えながら

ヒナタ 毎日毎日、朝から晩まであんなに働いて…絶対疲れてるはずなのに、私たちの前ではいつも大丈夫、大丈夫…って…！お母さんのこと…嘘つきって言ってたのに…お父さんも嘘つきじゃん…

コイズミ ∵

ヒナタ …お父さん…死んじゃうのかな？私のせいなのかな？私が…私が迷惑かけてるから、だからお父さんあんなに働いてたのかな

コイズミ ∵

ヒナタ ねえ…いやだ、いやだよ。お父さんすぐに元気になりますよね？絶対大丈夫ですよね？

コイズミ ∵

ヒナタ ねえ？…お父さん大丈夫ですよね？ねえ、大丈夫だよね？大丈夫って言つよ！大丈夫って言つてよ！

ヒナタを抱き寄せ励ましの言葉ひとつかけてあげなれない自分にもどかしさを感じているコイズミ。ヒナタはコイズミの胸の中で泣いている。

複雑な表情をしているシニガミ。

ヒナタの携帯がなる。Voice over で「ヨウコからです」と音声表示。電話に出るヒナタ

ヒナタ

お姉ちゃん、うん、…うん…、うん、ちょっと待つて！ねえ！ちょっと！

電話が切れる

ヒナタ

お父さんの容体が急変したって…お姉ちゃんは病院に向かってるって…どうしよう。ねえ、どうすればいい！？どうすればいい？

病院の場所を思い出しヒナタの手を引っ張り上手側に歩く

コイズミ、ヒナタの手を頭に乗せて頷く。コイズミ。再びヒナタの手を引っ張り上手へ歩き出す。左に曲がり、ベンチを一周するように歩き下手の梯子の前で立ち止まる。バス停の前。バスが止まり扉が開き微かにエンジン音が聞こえる。コイズミ一步前に歩きだしヒナタも続いて一步前に歩き出す

ヒナタ すみません、このバスは第一病院前まで行きますか？…ありがとうございます

す

もう一步前に歩き出す二人

え？なんでこの人は乗つたらダメなんですか？

ヒナタ 歩いて行ける距離じゃないんです。この人がいないと病院までたどり着けないんです。なんで？なんでダメなんですか！？

バスの扉が閉まる音。バスが走り出す。戸惑っている様子のヒナタ。絶望した様子のコイズミ

ヒナタ お父さん…お父さんが…・・・なんで、なんで！

ヒナタ、コイズミにしがみつきかなり取り乱している様子、コイズミ上手の梯子の前で立ち止まりもう一度バスが来るのを待つ、バスが停まり、扉の開く音と微かなエンジン音。コイズミとヒナタ一步前に歩き出す

ヒナタ すみません、第一病院前に停りますか？…ありがとうございます！

再び一步前に歩き出すコイズミとヒナタ

ヒナタ なんですか？なんで？この人が連れてつてくれるんです！この人は今、私の目になつてくれてるんです！…この人は私のお友達なんです！お願いします！なんで、なんで…お父さんが、お父さんが…・・・！

泣き叫ぶヒナタを見ていても立つてもいられなくなつたコイズミ

コイズミ おい！シニガミ！頼む！30分、いや10分だけでいいから元の姿にもどしてくれ！

ヒナタ ？

コイズミ 頼む！頼むよ！お願いだよ！

シニガミ …それはできない

コイズミ 頼むよ！…！

必死にシニガミにすがるコイズミ。過去の自分の過ちを悔いる。

こうなつてしまつた自分を悔いる。様々なことが頭によざる。うううつ、う

ううつと頭を叩いている、決死の覚悟を決め、バスに向かうコイズミ

シニガミ やめろ！
コイズミ 離せー！

コイズミに振り飛ばされるシニガミ

シニガミ 次言葉を発したらお前は…
コイズミ だまれ！

コイズミ、バスに乗りこみ

コイズミ (運転手に)第一病院までお願ひします！(乗客に向かって)誰か、そこで降りる人いたらこの子を病院まで連れてってあげてください！お願ひします！

驚いた表情のヒナタ

コイズミ、ヒナタをバスに乗せる

コイズミ ヒナタ！降りる人が誰もいなかつたらバス停着いたら大声で病院まで連れてってほしいって叫べ、大声で叫べ！きっと誰かが助けてくれる！

ヒナタ でも！でも！

コイズミ ヒナタ！大丈夫！絶対に大丈夫だから！お父さんも、絶対に大丈夫！ヨウコと、お姉ちゃんにも！絶対大丈夫だからって！これから、どんな事があつても、お姉ちゃんと喧嘩しても！誰かに悪口を言われても！好きな人に嫌われても！生きるのがしんどくなつても！これから先、どんなに辛いことがあっても絶対に大丈夫！大丈夫だから！だから、だから頑張れ！頑張れ！ヒナタ！頑張れ！！頑張れ！！！！

ヒナタ

扉が閉まりバスが発車する

シニガミ、ピーナーとホイッスルを吹きレッドカードを出す

暗転

舞台中央に立つてゐるコイズミ。天界の証言台
コイズミにスポットが当たつてゐる

コイズミ

言葉を発したら自分がどうなるのか…そんな事はわかつていても、あの子を全力で励ましてあげたかった。こんな俺に優しく声をかけてくれたあの子に。俺が今まで使っていた言葉ってなんだったんだろうな。本当に…綺麗なモノってなんなんだろう?…ってずっとわからなかつたけど、あの子に、あの家族に出会つて、俺はそれに気づけたような気がします…

ゆつくりと明かりが消える、また明かりがつくとヒナタが立つてゐる

ヒナタ

私が病室につく少し前にお父さんは天国へ旅立ちました。51歳でした。お父さんは幸せな人生だったのかな?私にはわかりませんが、幸せだったつて思つてくれてたらしいな。お仕事がお休みの日はお家でゆつくり休みたいはずなのに、いつも私たち達をどこかへ遊びに連れてつてくれたお父さん。お前達の人生なんだからお前達の好きに生きろつていうくせに、いつも私たちを気にかけて、いつも私たちの心配してくれていたお父さん。お父さんは最後までずっと私たちを愛してくれました。もしあの時、一台目のバスに乗っていたら、お父さんの最後に立ち会えたのかなつて思う時もあつたけど、もしも、なんてことを考へるのはやめました。でも、私みたいに、悲しい思いをする人が一人でもいなくなればいいなつて願つています。少しでも優しい世界になればいいなつて、そう、願つています。

暗転

#14

劇団KKの舞台カーテンコール、下手からヨウコ、キビツ、モモヤマが出てくる。客席にはアツシの小さい遺影を持つて座つてるヒナタとナツ。

劇団KKのメンバーが頭を下げるとき大きな拍手が客席から湧く。パチパチと大きな拍手をしているヒナタとナツ。劇団KKの3人が頭を上げ客席の方に手を向けると客席からコイズミが舞台上に出てくる。コイズミが深々と頭を下げるどもう一度大きな拍手が湧く

暗転

#15

天界。

タカムラ 分厚い資料をパタンと閉じる。エンマは椅子に座って下界を覗くようなそぶりをたまに見せつつ体をぶらぶらと揺らしている。そこにシニガミがやつてくる

タカムラ

あ、シニガミさんお疲れ様でした

シニガミ お疲れ様でした。一応報告書まとめておきましたよ

タカムラ

ありがとうございます

エンマ

今回の案件でタカムラはノルマ達成かー、まあ、喜ばしいことではあるけどちょっと寂しくはなるよねー

タカムラ

長い間一緒にやつてきましたからね、でもまだ引き継ぎの業務もあるので、しばらくはここにいますよ

エンマ

あ、今日からだつける前の後釜が来るの

タカムラ

そうですね、まもなく到着すると思います

エンマ

でもなんか今回の判決、腑に落ちないんだよな、シニガミさんこの報告書で本当に合ってる?

シニガミ

はい

エンマ コイズミは初日に劇団 KK の稽古場で言葉を発して以降、一度たりとも下界のものには言葉は発していません…と

もう一度報告書を読み直すエンマ

エンマ このバス停で大声を上げたってのは?

タカムラ それは下界の者へではなく、シニガミさんがその日あまりにメンタルが沈んでいたようで、それでコイズミはシニガミさんに大きな声で励ましてくれたようです。ですよね?

シニガミ

ええ

エンマ ヘえー。シニガミでもメンタル沈むことつてあるんだ。まあ、俺にとつても案件が成立するのは喜ばしいことだから別にいいんだけどね

タカムラとシニガミ上手もほうでヒソヒソと

シニガミ ちゃんと今度ご飯ご馳走してくださいよ、僕だつて虚偽の報告つてバレたら立場が危ういんだから!

タカムラ 大丈夫!大丈夫!こんな日のために15年も真面目に働いてきたんだから

エンマ ん?今なんか悪い話してた?

タカムラ いいえ

エンマ 本当に?

タカムラ もちろん！嘘がつけない性分ですよ、私！

下手からエンマやタカムラと同じような羽織をきたアツシがやつてくる

アツシ 今日からお世話になります。よろしくお願ひします
エンマ おお、きたか

タカムラとアツシ、少し目を合わせて

タカムラ …長い間、お疲れ様。本当にありがとうね

アツシ …うん

タカムラ …ねえ、ちょっとこっち来るのが早すぎるんじゃない？

アツシ お前には言われたくないわ

タカムラ …こんなに老け込んじゃって

アツシ 15年も経てばこうなるよ！

タカムラ …で、あんたがいないで、あの子たち大丈夫なの？

アツシ 大丈夫だよ、3人ともまっすぐいい子に育ったから。心配はしてないよ

タカムラ 私に似たんだねー

アツシ いや、俺に似たんだよ

タカムラちょっと笑いながら

タカムラ そうかもね。あ、でも心配してないは嘘！

アツシ いやいや、…それは多少心配にはなるけど

タカムラ …そりやあねえ

アツシ だろ！いや、ってかすぐ嘘つくのはお前の専売特許だろ

タカムラ はあ？ちょっと人のことをお前って呼ばないでくれない

少し戸惑ってるエンマ

エンマ …何してんの？

タカムラ …もう

アツシとタカムラ、少しばかり見つめ合いお互いに笑う

タカムラ さ、では早速業務説明から始めますねー

アツシ お願いします！

タカムラ はい、ついてきてください

タカムラ、アツシ連れて上手へ向かう。エンマ、不思議そうに死神の方をむく。ニヤニヤしながら知らんぷりをしているシニガミ

溶暗

#16

幹線道路沿いのベンチ。バッグを自分の横に置きベンチに座つてぼーっと行き交う人々を眺めているコイズミ。誰かを待っている様子。下手からボロボロの服を着た浮浪者が歩いてくる。コイズミ、自分の横にあつたバッグを膝の上に置くが浮浪者はコイズミの目の前を通り過ぎそのまま上手にハケていく。その様子を眺めていると上手からヨウコの腕を支えながら歩いてくるヒナタ。その後ろをナツが歩いてくる。コイズミ咄嗟に立ち上がる

コイズミ :

ヨウコ コイズミさん? こんなところで何してるんですか?

コイズミ あ、いや

コイズミ、ナツとヒナタの方に二、三歩歩み寄り会釈する

ヒナタ え?

ナツ あ、あの、姉がいつもお世話になつてます

コイズミ : いえ、こちらこそ

ヒナタ あの! この前は:本当にありがとうございました

コイズミ え?

理解できない様子のヨウコとナツが目を合わせる。

ヒナタ 私の自慢のお姉ちゃん達です

ヒナタ、ゆっくりとコイズミの方に歩み寄る。コイズミ、ヒナタに手を差し出しそうと掴んで支える。にっこりと笑うヒナタ

ヒナタ 私のお友達です！

ナツ

？

ヒナタ 一緒にご飯食べに行きませんか？

戸惑うコイズミ、ヨウコ、ナツ。

コイズミついヒナタの手を頭に乗せ頷く動きをする

ヨウコ ん？

コイズミ あ、いや、ご一緒してもいいんでしたら
ヒナタ もちろん！ほら！早く行こう！

少し姿勢を正し笑顔になるコイズミ

ヒナタ、コイズミの腕をギューッと掴み

ヒナタ よし！まっすぐーー！

タイトル「すとれーとごー」

完